

すぎなみ 大人“熟”してる？

Jukuseru? TIMES'18

総合コース
コトバ・ラボ
#6

平成30年10月26日発行
発行元：社会教育センター（事務局）

なぜ言葉は誕生したのか？

岡ノ谷 一夫氏（東京大学）

9月21日（金）
午後7時～9時
於：セシオン杉並
視聴覚室



総合コース
受講生 27名

第2部最初の講座となります「なぜ言葉は誕生したのか？」は、東京大学の岡ノ谷一夫さんをゲスト講師にお迎えして開催しました。

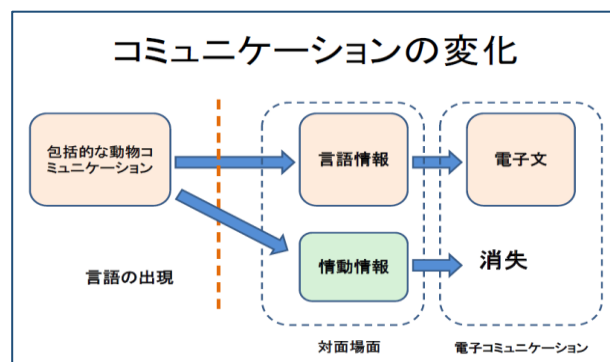


本日のお話のポイント！

1. 電子コミュニケーションの弊害
2. コミュニケーションの進化
2-1 単語、2-2 文法、2-3 社会
3. 正直な信号という考え
4. まとめ

以前、コミュニケーションをとる時には、相手と顔を合わせて、言語情報と情動情報（声、表情、身体の動きなど）両方から情報を得ることが主流でした。しかし最近では対面で人と接するよりも、メールなどの通信機器を使用してコミュニケーションをとることが多くなってきてい

ます。先生のお話の中で、「メールは嘘のハードルを下げた」ということは、本当にその通りで、どのような状況で返信をしてくれているかは、受けた側にはわかりません。私たちは1日最低でも20回は嘘をついているというお話も衝撃でした。



（←当日配布資料より）

くみなさんの感想で、多かったもの>

- ① コミュニケーションの危機感
- ② 人類の言葉の起源を探るアプローチが動物を研究することにつながることに驚いた。
- ③ 今後のコミュニケーションの形態の変化
- ④ 人間は言葉より先に歌を歌っていた。
(歌が言葉の起源?)



ワークでは、「正直な信号」についても話し合いました。「正直な信号」は、とても興味深いお話でした。人には、自己制御不能な筋肉と自己制御可能な筋肉があるとのこと。例えば、目の周りの筋肉は自己制御不能な筋肉で、口の周りの筋肉は、自己制御可能な筋肉です。

なので、自己制御不能な筋肉が動くということは、正直な気持ちの表れであるとのことでした。また、言葉は正直な信号ではなく、発話するとたんに虚偽となるというのも、不思議と納得のできるお話でした。



様々なアプローチから、「言葉はなぜ誕生したのか」という問いについて、答えはわかってはいないけれど、動物の鳴き声の分析や歌でコミュニケーションを取る民族などの研究から、音の組み合わせにより、単語が形成されてきたのではないかと岡ノ谷先生の仮説は面白かったですね。言葉がない時代に、または言葉をもたない動物たちが、何かを伝えたい時に、音の組み合わせによって、コミュニケーションを凶っていたというのも、驚きでした。

いよいよ、講座も終盤になってきました。ゲスト講師を迎える講座はあと3回、2月16日には大人塾3コース合同成果発表会があります。総合コースがどのような発表になっていくか楽しみです。

次回は、11月9日(金)午後7時~9時。会場は、セシオン杉並2F視聴覚室となります。「AIはどのように言葉を扱うのか？」をテーマに、作家の川添愛さんをお迎えして開催します。どうぞ、お楽しみに!!